学校便り
No.２５

二天一流

令和７年１１月７日（金）
文責：池田　誠

１１月は「心かがやけ月間」です

熊本市では、「熊本市教育振興基本計画（令和６年～令和９年）」のもと、「豊かな心を育む教育の推進」に力を入れています。特に「心かがやけ月間」は、学校・園、家庭、地域が連携して子どもたちの豊かな心を育むために、平成１９年度にスタートしたものです。それぞれの学校・園において、毎年１１月に道徳教育推進のための様々な取組を行っています。

人を笑顔にする算数～おもいやり算～

本校においても、家庭と連携した道徳の授業や地域の方とふれあう自然体験活動等、子どもたちの主体的な活動などの取組を行う予定です。

昨日の学校朝会においても、「人を笑顔にする算数」について話しましたので紹介します。

みなさん、おはようございます。

さて、みなさんは、算数で様々な計算を習いましたね。今まで何算を習いましたか？そうです。たし算やひき算、かけ算やわり算ですね。この中で得意な計算や苦手な計算はありますか。

今日は、みんなが得意になってほしい「人を笑顔にする算数」についてお話をしますから、よく聞いてください。

最初にこの場面を見てください。若い親子が、バスを降りようとしているおばあさんを助けていますね。これは**「たすけあう」**、たすという言葉がはいっているので心のたし算になります。

次にこの場面を見てください。若い女の人が片手に赤ちゃんを、もう一方の手にベビーカーをもって、陸橋の階段を登ろうとしているところです。若い男の人が「ベビーカーを持ちますよ。」と言っています。これは**「ひきうける」**、ひくという言葉が入っているので心のひき算になります。

では、次の場面です。ベンチで泣いている男の子に女の人が声を掛けています。もう分かったかな。これは**「声をかける」**、かけるという言葉から心のかけ算です。

最後の場面です。雨の中を１年生が濡れながら帰っているところです。そして、同じ小学生の男の子が女の子を傘に入れてあげます。これは、**「わけあう」**、分けるという言葉から心のわり算になります。

「たすけあう」たし算は、班で協力して話合いをしたり、体験活動の時に助け合ったりするときに使っていますね。

「ひきうける」ひき算は、掃除が早く終わってほかの場所を手伝ったり、休みの人の給食当番を引き受けたりするときに使っていますね。

「声をかける」かけ算は、泣いている下級生に声をかけたり、学習で悩んでいる友達に声をかけたりするときに使っていますね。

「わけあう」わり算は、教科書を忘れた友達に見せてあげたり、「遊びに入れて」と言ってきた友達に対して「いいよ」と返したりすることで、楽しみを分けあうときに使いますね。

このような計算を**「おもいやり算」**といいます。算数の計算が苦手な人も、この「おもいやり算」は得意になってほしいなと校長先生は思います。

１１月は「心かがやけ月間」です。おもいやり算をたくさんつかって、みなさんの心がピカピカに輝いていることを期待していますね。お話を終わります。

この「おもいやり算」は、２０１２年に放送されたＡＣジャパン CM です。（YouTube でご覧になれます。）CM の最後には、「それは人を笑顔にする算数。『おもいやり算』。 ほら、やさしいでしょ。」と結んでいます。優しさは人に笑顔を与えます。子どもたちが、この「思いやり算」で心を育みながら、笑顔いっぱい、優しさいっぱいの楽しい学校生活を送れるようにしていきたいと思います。